

# 1. 北部地域学校規模適正化に向けた適正方策の決定について【中間報告】

## 1 検討の経緯

福井市学校規模適正化検討委員会の答申を受け、福井市北部地域における学校施設の整備方針に関する基本計画を取りまとめることを目的に、「福井市北部地域学校規模適正化基本計画策定委員会」を設置した。

これまでに人口や土地利用に関する中長期展望を踏まえつつ、幅広い視点から、適正な方策について必要な事項を整理するため、下記のとおり、委員会を開催し検討してきた。

第1回 (7月20日)	・現状整理(地区現況、児童・生徒数の予測、施設概要等) ・森田小・中学校における具体的方策の検討
第2回 (9月2日)	・2校化に伴う小学校区の区分について ・新中学校の移転新築について

## 2 学校規模適正化委員会の答申内容(R2.5)

### 1 小学校の適正規模の考え方

多様な仲間と学び合い、高め合うには、各学年2～3学級が標準規模。  
学年ごとに1学級を維持できる規模、各学年3～5学級も許容範囲。  
・各学年6学級以上、全児童数が1,000人を超えることが予想される場合、施設活用等で支障をきたし、子どもたちが伸び伸びと学び生活することが困難になるため望ましくない。

### 2 中学校の適正規模の考え方

多様な人間関係の中での学び合いのために、各学年複数の学級編成が望ましい。  
1学年1学級であっても20人程度であれば、きめ細やかな少人数教育が展開できるので許容範囲。

**答申内容**

- ・森田小学校については、速やかに2校への分割を進めることが必要。
- ・分割に際しては校区を見直し、通学時間や安全面について十分配慮すること。

## 3 森田地区における児童・生徒数の現状と予測

### (1) 現状

小学校：令和2年に1,000人を超え、今後も増加が見込まれる。

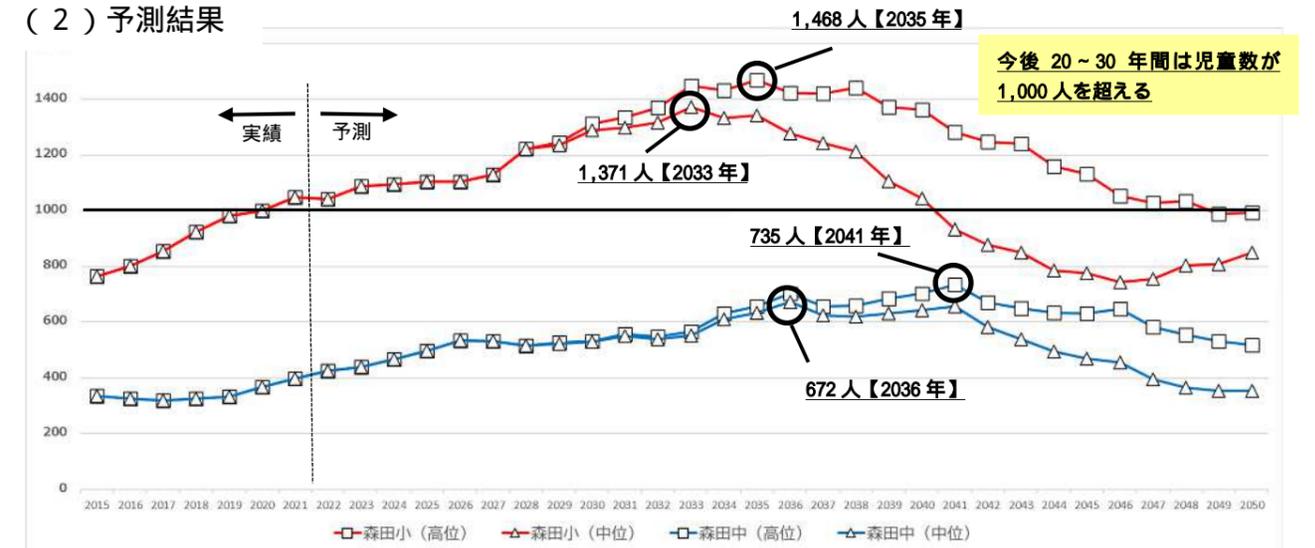
(令和3年度：1,049人)

中学校：令和元年度から急増し、将来的には**既存校舎だけでは教室確保が難しい。**

(令和3年度：398人)

今後も**福井森田道路周辺の農地を中心に宅地化**されていくことが想定される。

### (2) 予測結果



森田小のピークは  
高位で2035年に1,468人

森田中のピークは  
高位で2041年に735人

## 4 各学校施設の概要

	森田小学校	森田中学校
配置関係 (築年数)		
収容人数	1,260人(36教室分)	480人(15教室分)
改修状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最も古い棟は築59年。</li> <li>・13棟の内7棟(5,428㎡)は築35年を経過しており、改修時期を迎えている。</li> <li>・平成29年に体育館の大規模改修及び給食室の増築を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最も古い棟は築53年。</li> <li>・9棟の内4棟(3,808㎡)は築35年を経過しており、改修時期を迎えている。</li> <li>・平成22年に体育館及び昇降口の改築を実施。</li> </ul>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2にプレハブ校舎を設置。</li> <li>・R3に特別教室、児童クラブを移設することにより、校舎内に普通教室を確保。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学級あたりの生徒数が32人を超えているため、R3に余裕教室等の改修により必要な普通教室を確保。</li> </ul>

## 5 各学校における具体的方策の検討

### (1) 森田小学校で想定される具体的方策

具体的方策	実現の可否	方向性
既存の敷地内での増築、改築	可能性低い(児童数が1,000人を超えているため)	×
校区(学区)の変更	可能性低い (校区変更による河合小での受入に限界がある) (地区をまたぐ変更は、地元の下承を得ることが厳しい)	×
小学校の新設	<b>可能性あり</b> (適当な建設地の確保が条件) 区画整理区域内に適地はなく、区域外西部(JR北陸本線西側)だと地理的なバランスを確保することが厳しい。	○
現森田中を小学校へ改修	<b>可能性あり</b> (中学校の移転新築が条件)	○

### (2) 森田中学校で想定される具体的方策

具体的方策	実現の可否	方向性
既存の敷地内での増築、改築	<b>可能性あり</b> (グラウンドが狭小になる可能性がある)	○
校区(学区)の変更	可能性低い (校区変更による灯明寺中での受入に限界がある) (地区をまたぐ変更は、地元の下承を得ることが厳しい)	×
移転新築	<b>可能性あり</b> (適当な建設地の確保が条件) 区画整理区域内に適地はなく、区域外西部(JR北陸本線西側)の可能性が高い。 通学路の安全確保等の観点から河合地区の中学校区を灯明寺中から新しい中学校に変更することも可能。	○

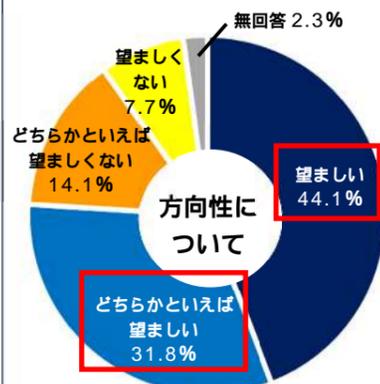
具体的方策の方向性は、

**森田小学校「現森田中を小学校へ改修」、森田中学校「移転新築」とする。**

## 6 住民アンケートの結果(具体的方策について)

配布総数: 2,000件  
回収数: 998件 回収率: 49.9%

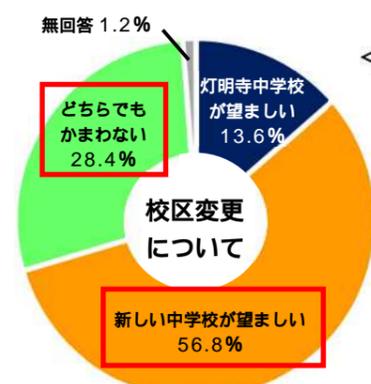
森田地区) 配布数: 1,707件 回収数: 836件 回収率: 49.0%



### <森田地区>

「現中学校を改修しての小学校2校化・中学校の移転新築」について、望ましいとの回答が76%となった。

河合地区) 配布数: 293件 回収数: 162件 回収率: 55.3%



### <河合地区>

どちらでもかまわないとの回答を含めると、「新しい中学校への校区変更」について、可とするとの回答が約85%となった。

各学校における具体的方策の方向性について、望ましいと回答する割合が高かった。

## 7 各学校における適正方策

### (1) 小学校の適正方策 「現中学校を改修しての2校化」

<2校化に伴う校区の学校規模の考え方について>

委員会の  
基本方針

学びに適した学校規模(児童数最大800人前後、2校の児童バランスを整える)  
地域コミュニティを考慮し、自治会区域を極力分割しない。  
通学路の安全性の確保(幹線道路の横断箇所を少なくする等)

上記を踏まえて、校区を検討する。(最終的には通学区域審議会で決定する)

### (2) 中学校の適正方策 「区画整理区域外西部への移転新築」

<建設地の選定について>

委員会の  
基本方針

生徒数800人を想定した敷地規模(河合地区の生徒を含む)  
学びの環境の確保(電車による騒音、周辺公共施設との連携等)  
市街地との連続性と通学路の安全性の確保(歩道の有無、除雪状況等)

上記を踏まえて、建設候補地を決定する。

### <北部地域の学校規模適正化イメージ>



### (3) 学校規模の適正化までに想定される最短スケジュール

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9
新中学校	計画策定 用地交渉	基本設計・実施設計 用地造成		新築工事		開校 (R8.4.1~)	
現森田中					設計	増築・大規模改修 (小学校へ転用)	小学校の2校化 (R9.4.1~)
現森田小							

## 2. 森田小学校 2校化に伴う各学校の整備方針について

### 1 校区設定に伴う委員会の基本方針

【前回提案】パターン1：地区を均等にした場合（現森田小 600 人規模 - 現森田中 900 人規模）



#### < 校区割の特徴 >

- 自治会区域：自治会区域の分割なし
- 児童バランス
- 分割時：ほぼ同数
- ピーク時：校区 が多い
- 2050 年時：校区 が若干多い
- ピーク時からの増減率
- 小学校区 71% ~ 77%
- 小学校区 58% ~ 61%

#### 基本パターンを前提とした校区に関する「基本方針」

##### 学びに適した学校規模

- ・児童数が 1,000 人（各学年 6 学級）に近づくと、学びの環境として 2 校に分けた効果が少ない。
- ・2 校とも同じような学びの環境を提供する必要がある。そのため、整備内容や収容する児童数に差が出ないように配慮する必要がある。

##### 地域コミュニティを考慮し、自治会区域を極力分割しない

- ・子ども会や地区の行事等を考慮すると、自治会区域は変えない方がよい。
- ・ただし、上記の学びの環境を確保するために、必要最小限の区域分割を検討する可能性はある。

##### 通学路の安全性の確保

- ・幹線道路の横断箇所は少ない方がよい。
- ・通学距離も考慮する必要がある。

パターン 1		2025	増減率	2030	増減率	2035	増減率	2040	増減率	2045	増減率	2050	増減率
高位	小学校区	555	-	616	111%	581	94%	521	90%	487	94%	450	92%
	小学校区	549	-	697	127%	887	127%	843	95%	644	76%	544	85%
中位	小学校区	546	-	600	110%	533	89%	420	79%	352	84%	379	108%
	小学校区	558	-	691	124%	811	117%	625	77%	424	68%	472	111%

#### 上記の基本方針を踏まえた新たな校区の考え方

【パターン 1-1】現森田小 700 人規模 - 現森田中 800 人規模

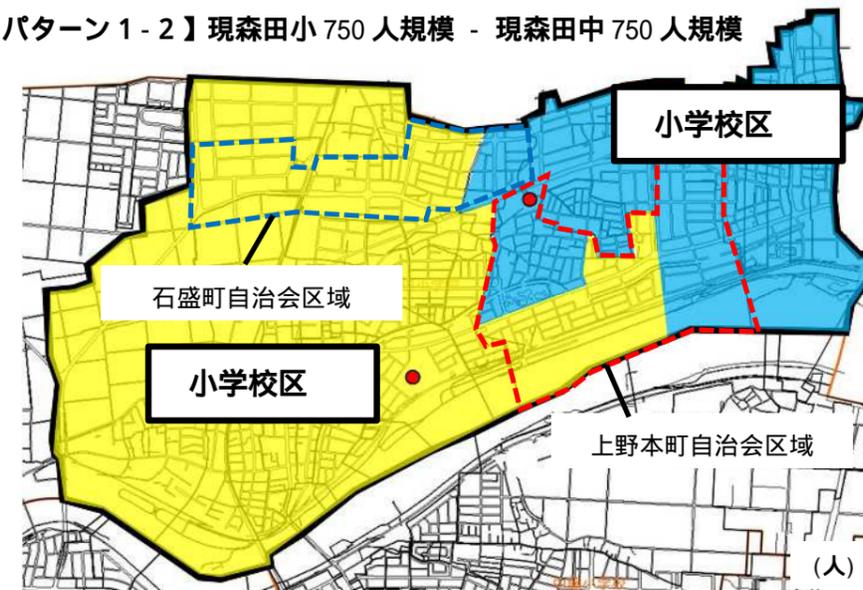


		2025	2030	2035	2040	2045	2050
高位	小学校区	640	705	674	613	574	538
	小学校区	464	608	794	751	556	457
中位	小学校区	632	688	624	507	435	465
	小学校区	472	602	720	538	341	386

パターン 1-1		各校区における児童数【高位】	パターン 1-2	
2025 年	640 人 464 人		2025 年	652 人 452 人
2035 年	674 人 794 人	2035 年	731 人 737 人	
2050 年	538 人 457 人	2050 年	552 人 443 人	
上野本町自治会のみ 小学校区 : 上野本町 2 丁目 小学校区 : 上野本町 1、3、4 丁目		自治会区域の分割	石盛町自治会 + 上野本町自治会 小学校区 : 石盛町、石盛 1、2 丁目 小学校区 : 上野本町 2、3 丁目 小学校区 : 石盛 3 丁目、上野本町 1、4 丁目	

「通学路の安全性」については、案 1、2 ともほぼ同様  
上記を踏まえ、**現森田小・現森田中の学校規模は 800 人規模**として整備方針を検討する。

【パターン 1-2】現森田小 750 人規模 - 現森田中 750 人規模



		2025	2030	2035	2040	2045	2050
高位	小学校区	652	729	731	679	607	552
	小学校区	452	583	737	684	523	443
中位	小学校区	648	716	681	558	461	482
	小学校区	456	575	663	487	315	369

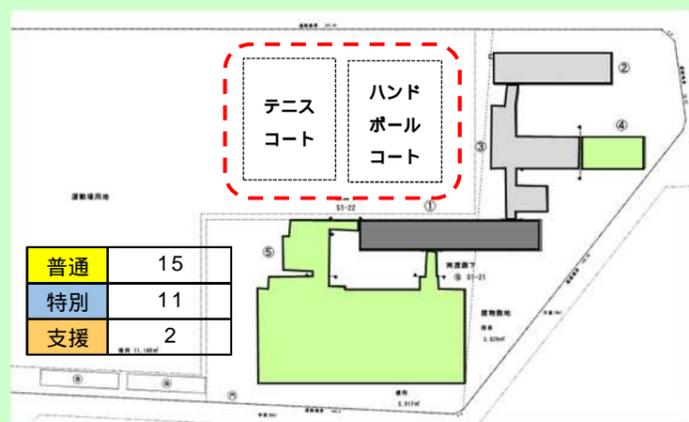
## 2 整備方針（案）の検討

現森田中整備方針

### 現状

#### 【施設規模：480人収容】

- ・「テニスコート」「ハンドボールコート」は中学校の部活動による占有スペースのため、小学校に転用した場合は確保する必要はない。



### 第一次整備

#### 【R5年：校舎増築 660人収容】

- ・普通教室不足のため、4教室分の校舎を増築。  
(整備時はまだ中学校として部活動利用があるため、占有スペースについては要協議)



### 第二次整備（校舎増築のみ第四次整備）

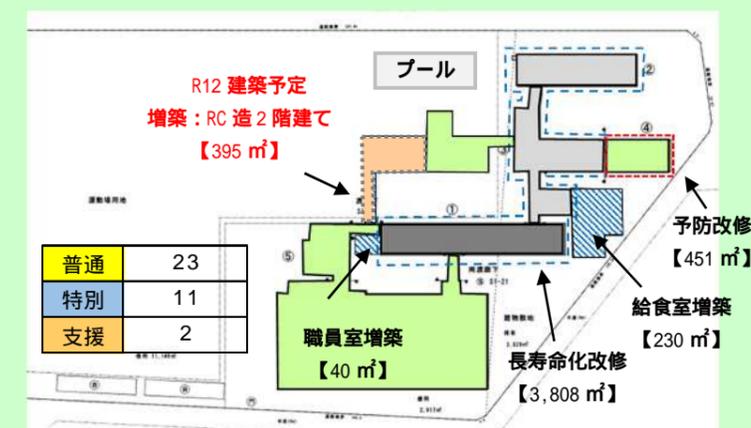
#### 【R8年：給食室等増築+長寿命化改修 660人収容】

- ・配膳室に一部増築して給食室に転用、職員室も増築。
- ・既存校舎は、築年数に応じた対応。（長寿命化・予防）

想定ピーク児童数（パターン1-1）

R18：797人（高位） R17：720人（中位）

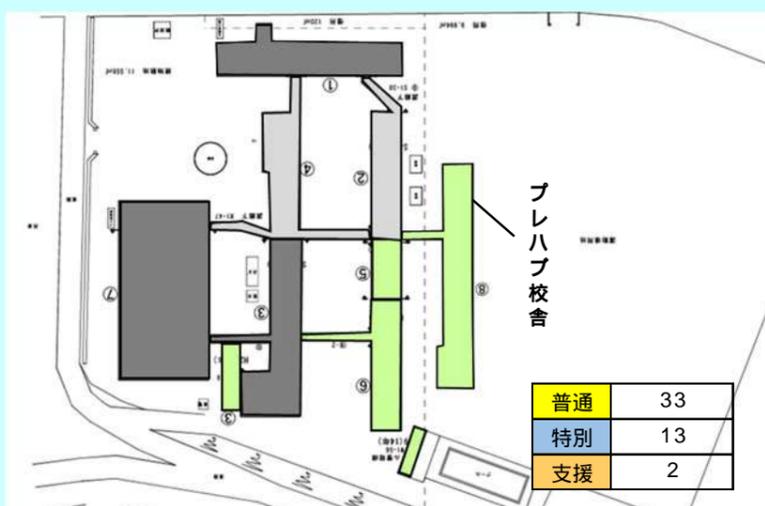
ピークを見据え、R12に校舎を増築予定



### 現状

#### 【施設規模：1,260人収容】

- ・プレハブ校舎のリース期間は、R8年度まで。  
(整備方針に合わせてリース期間の延長も要検討)



### 第三次整備

#### 【R9,10年：長寿命化改修 1,260人収容】

- ・既存校舎は、築年数に応じた対応。（長寿命化・予防）  
(プレハブ校舎を活用し、2カ年にわたって改修)



### 第四次整備

#### 【R11年：解体 805人収容】

- ・北校舎及びプレハブ校舎は、解体撤去。

想定ピーク児童数（パターン1-2）

R15：766人（高位） R15：732人（中位）



現森田小整備方針

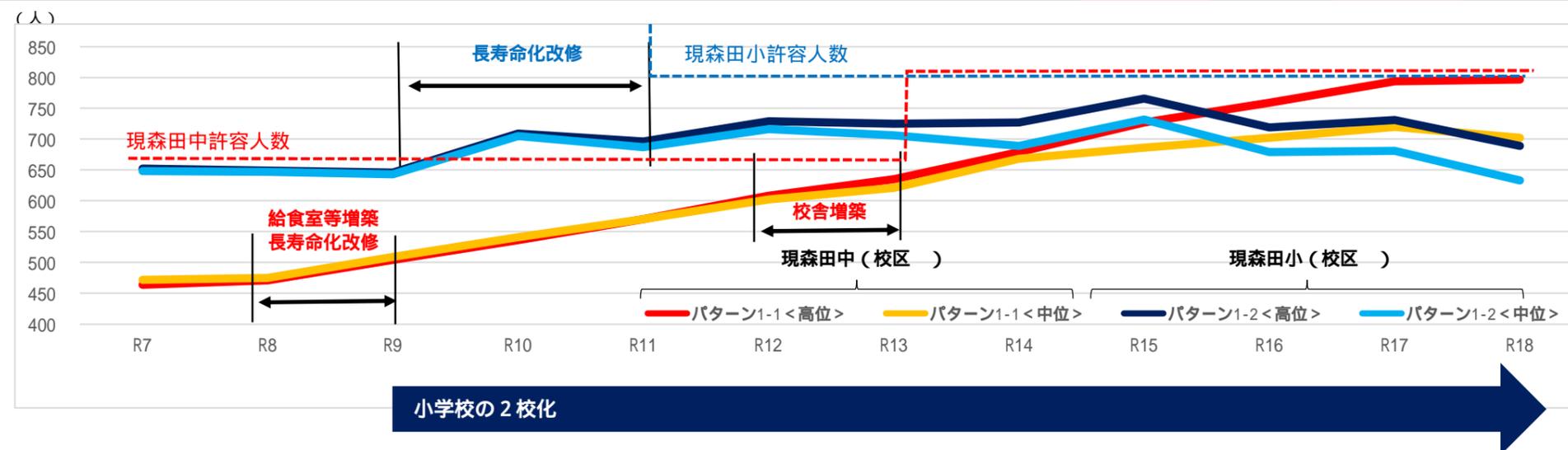
### 3 整備スケジュール

		R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18		
		2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036		
中学校 (71名増)	現森田中	事業内容	設計	校舎増築		新中学校 開校												
	現森田中	収容人数 32人学級	480 (15教室)	480 (15教室)	608 (19教室)	608 (19教室)											中位推計 ピーク	高位推計 ピーク
	計	生徒数	425人	440人	467人	496人	533人	532人	516人	526人	532人	556人	547人	566人	631人	657人	703人	
小学校 2校化	現森田中	事業内容				設計	2校化		設計	校舎増築								
		児童数	収容人数 35人学級	525人 (15教室)	525人 (15教室)	665人 (19教室)	665人 (19教室)	665人 (19教室)	665人 (19教室)	665人 (19教室)	665人 (19教室)	805人 (23教室)	805人 (23教室)	805人 (23教室)	805人 (23教室)	805人 (23教室)	805人 (23教室)	
		パターン1-1<高位>	-	-	-	464	471	504	536	570	608	635	679	727	759	794	797	
	パターン1-1<中位>	-	-	-	472	475	509	541	570	602	621	668	686	702	720	702		
	現森田小	事業内容					設計	長寿命化改修	長寿命化改修	解体								
		児童数	収容人数	1,260人 (36教室)	1,260人 (36教室)	1,260人 (36教室)	1,260人 (36教室)	1,260人 (36教室)	1,260人 (36教室)	805人 (23教室)								
		パターン1-2<高位>	-	-	-	652	649	646	709	696	729	725	727	766	719	731	689	
パターン1-2<中位>	-	-	-	648	647	643	705	687	716	706	689	732	679	681	633			
計	全児童数<高位>	1,043	1,089	1,096	1,104	1,105	1,130	1,221	1,245	1,313	1,335	1,370	1,448	1,433	1,468	1,424		
	全児童数<中位>	1,043	1,089	1,096	1,104	1,105	1,130	1,221	1,235	1,290	1,298	1,317	1,371	1,334	1,277	1,243		

#### < 将来的な整備方針について >

現森田中は、R10以降の児童数の推移を見ながら、  
校舎の増築規模等の検討を行う。

現森田小は、R10以降の児童数の推移を見ながら、  
「校舎の解体」or「減築 + 一部改修」  
といった整備内容を検討する。



# 3. 新中学校建設に向けた「新しい時代の学びを支える学校整備」について

## 1 『新しい時代の学びを実現する学校施設の姿（ビジョン）』

～ School for the Future 「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体で学びの場として想像する～

### 「未来思考」の視点

学校は、教室と廊下それ以外の諸室で構成されているものという固定概念から脱し、学校施設全体を学びの場として捉え直す。

教室環境について、単一的な機能・特定の教科等に捉われず、横断的な学び、多目的な活動に柔軟に対応していく視点（柔軟性）をもつ。

紙と黒板中心の学びから、1人1台端末を文房具として活用し多様な学びが展開されていくように、学校施設も、画一的・固定的な姿から脱し、時代の変化、社会的な課題に対応していく視点（可変性）をもつ。どのような学びを実現したいか、そのためにどんな学び舎を創るか、それをどう生かすか、関係者が、新しい時代の学び舎づくりのビジョン・目標を共有する。

### 新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方（5つの姿の方向性）

学 び	生 活	共 創	安 全	環 境
個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、 <b>柔軟で創造的な学習空間を実現</b>	新しい生活様式を踏まえ、 <b>健やかな学習・生活空間を実現</b>	地域や社会と連携・協働し、 <b>ともに想像する共創空間を実現</b>	子供たちの生命を守り抜く、 <b>安全・安心や教育環境を実現</b>	脱炭素社会の実現に貢献する、 <b>持続可能な教育環境を実現</b>

## 2 国が示す「公立学校施設の整備方針」

背景

学校施設の老朽化がピークを迎える中、子供たちの多様なニーズに応じた**教育環境の向上と老朽化対策の一体的整備**が必要。  
 中長期的な将来推計を踏まえ、**首長部局との横断的な協働**を図りながら、**トータルコストの縮減に向けて計画的・効率的な施設整備**を推進。  
 2050年のカーボンニュートラル達成に向けて、**脱炭素社会の実現に貢献する持続可能な教育環境の整備**を推進。

### 1 新時代の学びに対応した教育環境向上と老朽化対策の一体的整備の推進

学校施設の長寿命化を図る老朽化対策  
 バリアフリー化、特別支援学校の整備  
 他施設との複合化・共用化・集約化

### 2 防災・減災、国土強靭化の推進

非構造部材の耐震対策等  
 避難所としての防災機能強化  
 （バリアフリー化、空調設置、トイレ改修等）

### 3 脱炭素化の推進

学校施設の ZEB 化  
 （高断熱化、LED 照明、高効率空調、太陽光発電等）  
 木材利用の促進（木造、内装木質化）

## 新しい時代の学校施設



老朽化対策と一体で教室の一部を新しい学びに対応する創造的空間に転換

複合化・共用化・集約化により学習環境を多機能化しつつ、効率的に整備



体育館の空調設置、断熱化などにより良好な室内環境を確保し、多様な活動に対応

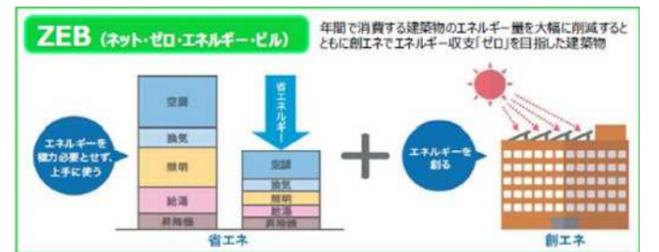


ロッカースペースの配置の工夫等による教室空間の有効活用



校舎の柱や内装に木材を活用し、温かみのある学習・生活環境や脱炭素化を実現

## 脱炭素化



出典：環境省ホームページ



激甚化・頻発化する災害への対応



## 国土強靭化